

令和3年度 テーマ研修 (報告)

令和4年 3月2日
テーマ研修係

1 全体研究主題

「多様な実態に応じた個別最適化された学びを目指して」
～ICT等を活用した授業づくり～

2 令和3年度の研究主題(1年目/3年)

「多様な実態に応じた個別最適化された学びを目指して」
～ICT等の活用と共有化を探る～

3 主題設定の背景

ア 教育情勢

学習指導要領が改訂され、「教育の情報化」、「情報活用能力」が、「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられた。文部科学省は「GIGA スクール構想」を掲げ、令和5年度までに一人一台のPC端末の導入や校内の高速通信ネットワークの完備、デジタル教科書などのコンテンツを用いた個別最適化された学びを目指している。「すべての子どもたちが安心して学べる機会につなげることの重要性」を説くとともに、情報手段の基本的な操作を習得する学習活動を充実させることなどが唱えられている。これらの実現のため、教員のICT「指導力向上」に向けたハード・ソフト両面での教育改革に取り組むことを提言している。鹿児島県では令和3年度から5年度にかけて「未来の作り手を育成する学力向上プログラム」を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、主体性、協働性、創造性を身に付け、新しい未来の姿を構想し実現していく力の育成を目指していくこととしている。

イ 児童生徒の実態

本校は寄宿舎を伴う知肢併置の大規模な特別支援学校である。多くは知的障害を主障害とするが、肢体不自由を併せもち医療的ケアを必要としていたり、訪問教育で学習をしていたりする児童生徒も在籍している。中には不登校傾向で心理的ケアを要したり、自宅での学習の機会を保障しなくてはならなかったりする児童生徒もおり、それぞれに多様な教育的ニーズがある。

学習や生活場面でICT機器を使用すると興味・関心をもって集中し、落ち着いて活動に取り組むことができる児童生徒が多い。ICT等の機器を利用し、視覚的・聴覚的情報を取り入れることで学習の理解を深めたり、情緒の安定を図ったりしている。また、「ビッグマック」等のVOCAを活用してコミュニケーション能力や表現力を高めたり活動の幅を広げたりすることができている。しかしながら、ICT等の活用が個々の実態に合ったものではなく、集団学習の中で教師が提示するのみとなっている場面も見られ、個別のニーズに十分に答えられていない。

ウ 授業づくりの現状

本校は昨年度までの3年間、「子どもが主体的に学び合い、豊かな生活につなげる授業づくり」の主題を設定し、主体的・対話的で深い学びの実現に向け研究を積み重ねてきている。主題に近付くために、授業づくりに取り組み、授業力の向上を図ることができてきたが、個別最適化された学びの充実には至っていない。また、教科等指導においては、各学部間の連携や指導内容の系統性及び一貫性に課題が残っている。

ICT等の環境は、これまで、教師用パソコンや各クラスに1台程度のテレビやタブレット端末が使用可能であったが、今年度、児童生徒用タブレット端末が一人一台整備され、電子黒板や書画カメラも導入された。ネットワーク環境も整備されつつあり、ICT教育を推進していく環境が整いつつある。また、一昨年度からコロナ禍の中、集団活動が制限され、テレビやタブレット端末を活用する機会が増えているという社会情勢もある。

これらの背景から、私達教職員が「ICT活用指導力」を向上させ、授業や生活の中で、実態に応じてICT等を取り入れることにより、児童生徒の「情報活用能力」が向上し「個別最適化」

された学びを促進するための効果的な学習が実現されると考える。寄宿舎生においても、学校との情報及び指導・支援の手立てが共有化されやすいことから、安定した環境で生活しやすい利点があると考え。以上を踏まえて ICT 等を活用した授業づくりや寄宿舎での生活指導に取り組むこととした。

4 研究のねらい

- 個別最適化された学びの実現に向けて、教科等部内の連携を図りながら授業づくりを実践し、ICT 等を活用した効果的な授業づくりを通して、指導法の改善及び教育課程への反映を目指す。
- 寄宿舎では「基本的な生活能力チェックリスト」で課題となった項目について、ICT 等を活用した効果的な指導のあり方を研究し学校と共有する。

5 研究の内容・方法

(1) 研究計画

期	方法	内 容
I	全体	1 本年度からの研修の方向性の確認 2 ソフトの使用法研修「Google Classroom」
II	グループ	○教科等部における授業づくり～ICT等を活用して～ (1)「育てたい資質・能力」の三つの柱や「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた学習指導案の作成 (2) ICT等を活用した指導法の検討と教材作成 (3) 授業実践及び授業研究会等を通じた授業改善 (4) 学習評価, 成果と課題の共有, 教育課程への反映 (5) フォルダ内での指導事例の共有 ○寄宿舎での効果的な指導方法の検討と実践
	全体	1 今年度の研修のまとめ(報告会) 2 来年度の研修の方向性の確認

(2) 研究を進めるに当たって

- ア グループ研修では学部を解いて各教科等グループを編成して行う。
- イ 「授業づくりの柱」を活用して指導案を作成する。
- ウ 指導案は本校様式（ICT等の活用欄あり）を使用する。
- エ 情報教育係や教育課程係と連携して研修を進める。
- オ ICT機器やソフトの活用等についての研修も行う。
- カ 授業後は教育課程への反映も実施する。
- キ 指導案や教材を共有できるようにする。

(3) 実際の研修

月	日	曜	研修	主な内容
6	16	水	テーマ研修①(全体)	今年度の研修についての共通理解(TV中継)
7	14	水	テーマ研修②(全体)	タブレット端末を使ったClass roomの研修(TV中継)
9	7	火	テーマ研修③	ドキュメントシートにICT機器等活用のアイデアを出し合う
10	18	月	テーマ研修④	授業計画を立て、ドキュメントシートに記入
11	9	火	テーマ研修⑤	Jamboardで授業研究や意見交換①
12	20	月	テーマ研修⑥	Jamboardで授業研究や意見交換②
2	14	月	テーマ研修⑦	ドキュメントシートに授業の成果と課題を記入
3	2	水	テーマ研修⑧(全体)	今年度のまとめ(報告会:TV中継)

7 今年度の研究のまとめ

児童生徒へ一人一台ずつタブレット端末が配布され、ネットワーク環境も整ってきたことにより ICT 機器等を使って個別最適化された学習を進めることができる環境が整ってきた。しかしながら、タブレット端末は配布されたものの、提示する教師側がタブレット端末やアプリの使い方に慣れておらず、またコロナ禍により、集まらずに研修をする方法を求められてきた。そのため、まずは職員の ICT 等への苦手意識を払拭することから始めようと考え、当初の計画よりも校内放送での研修やタブレット端末・アプリの活用法等をオンラインで研修する機会を増やした。そのため、少しずつではあるが、授業実践においても ICT 機器等を活用しようとする流れができ、実践を重ねることもできてきた。

まずは、classroom、ドキュメントシート、Jamboard を使ったアプリケーションについての研修を行った。成果として、教職員が少しずつ操作に慣れ、様々なアプリの利便性の高さや良さに気づき、使うことに対する苦手意識が下がってきたように感じられる。テーマ研修だけでなく個別に研修を重ね、学校生活全般の指導において積極的にタブレット端末を使用している教職員・学級も出てきている。また、学部を解き、教科等グループで編成をして研究を深めたことで、その教科等の指導方法等の情報交換はもとより、ICT 機器等の活用の仕方においても共通理解が深まった。10 グループのアイデアや実践、成果と課題は、指導に当たる全教職員の参考になる資料となった。

一方で、職員の ICT 機器等を活用する力については未だ個人差がある。今後、職員の力量が児童生徒の学びの差につながらないようにするために、有効な使い方を共有していきたい。また、個別最適化された学びへつなぐために、児童生徒の実態に応じた効果的な ICT 機器等の活用についての研修を深めていく必要がある。さらに、実践を積み重ねるごとに教育課程へ反映し、教育課程の再編成をしていく必要も出てくるだろう。教材等の共有に向けては、当初、指導事例集の作成を計画していたが、時代に応じた方法として Teams でのデータ共有を試みている。今年度は係がフォルダに残しただけで活用するには至っていないので、来年度からは全職員が活用できるように整備・共通理解していきたい。

8 来年度のテーマ研修について

今年度の成果と課題を受け、さらに、個別最適化された学びに向かっていくために、学部ごとに掘り下げたい内容を掲げて研修を行っていきたいと考える。併せて、職員の ICT 機器等の活用スキルの向上、教育課程への反映や指導案・教材の共有・活用についても継続して研究していきたい。